

彙報

史学研究會

大会 第一日十一月二日(金)午後一時より

於 京都大学文学部第一教室

本年は共同テーマにより京大史学科各研究室の協力を得て、有意義な歴史・地理・考古学の反省をすることが出来た。三百人余の参会者を得盛会であつた。

原理事長の挨拶、会務報告後左のように発表を行つた。

演題 二十世紀に於ける史学・地理学・考古学の発展

考古学	京大	梅原 末治氏
国史学	関大	横田 健一氏
東洋史学	京大	里井彦七郎氏
西洋史学	京大	豊田 魏氏
地理学	大阪市大	岩田 慶治氏

第二日十一月三日(土)京大史学科各研究室の大会が行はれた。

第三日十一月四日(日)西本願寺什器、古文

書評と紹介

書、建造物見学会者約百五十名

本年は京大史学科関係の各研究会の協力を得て総合的な大会を行うことが出来たことは感謝に耐えない。

例会 二十七年三月十二日(水)午後一時

於 京大教育学部第一教室

歴史地理教育の諸問題

国史教育	京大教授	小葉田 淳
地理教育	京大教授	織田 武雄

教育学部及びIFELの後援を得たことを感謝する。

京大国史関係

説史会例会 九月二十六日(水)

「夏休調査旅行報告会」小葉田淳「佐渡鉾山探訪記」、黒田俊雄「近代の北陸の農村」、山形友郎「戦国武士の近世における一形態」、井ヶ田良治「延暦寺調査に参加して」、宮川滿「近世農村の諸事情」、竹田暲州「若狭名田庄の同族組織」

説史会例会 十月十三日(土)

藤谷俊雄「古代奴隷制について」、岸俊男「越前国東寺領庄園の経営」、平林一「加藤弘之について」

説史会例会 十月二十四日(水)

藺田香融「郡司に關する一考察」、杉井六郎「幕末貿易史の研究」

説史会大会 十一月三日(土)

(午前)牧健二「西洋人の日本歴史観発展の諸段階」林屋辰三郎「部落史における二、三の問題」平松令三「鎌倉時代土豪の信仰生活」梅倉昇「幕末における外国文明の振取について」、堀部日出雄「中世土豪の近世への転回」、中山修一「魏志倭人伝の一考察(午後) 柏倉亮吉「近世農村社会の一断面」、赤松俊秀「中世の為替について」、池田源太「日本古伝の伝承について」、徳永職男「鳥取藩元文一揆について」、志賀剛「兵主神について」、草間俊一「大化改新」、三吉希「明和、安永期の一考察」、小島広次「三河における一向宗徒騒擾について」

説史会例会 十一月二十八日(水)

渡部康彦「田境、名主について」、石田善人「中世一向一揆について」

説史会例会 十二月八日(土)

高尾一彦「畿内型農業の展開過程」、宮城

駿「中世武士団について」

読史会例会 一月二十三日(水)

三吉希「変革期における思想史の問題」

井清明「将門について」

読史会例会 二月九日(土)

直木孝次郎「古代社会構造の一考察」

藤利夫「二〇世紀日本文化形成の基盤」

月明「渡辺華山について」

京大東洋史関係

東洋史談話会 例会 一月三十日(水)

宮崎市定「太平天国について」

例会 二月二十三日(土)

藤本勝次「アラビア文学の変遷」

龍「清代における陽明学の伝統」

京大西洋史関係

西洋史読書会 西洋史専攻三回生の読書会発

表は次のように行われた。

岡田章 E. Troeltsch, Die Bedeutung

des Protestantismus für die Entstehung

der modernen Welt (Apr., 26.) 大西晏

B. Pares, A History of Russia (May, 10.)

三浦春彦 K. Reinhardt, Sophokles 永

井康規 T. Nietzsche, Geschichte der

griechischen Beredsamkeit 西沢龍生

W. Jeger, Demostenes, der Staatsmann

und sein Werden (May, 31.) 美濃部嘉一

G. D. H. Cole, A Short History of

the British Working Class Movement

(June, 21.) 茨木慶三 L. M. Hacker,

The Triumph of American Capitalism

(June 28.) 富岡次郎 H. Hefele, Die

Bettelorden und das religiöse Volksleben

Ober- und Mittelaltens im XIII Jahrhundert

永井三明 F. T. Perrent, Histoire

de Florence, tom. II, (Oct., 18.) 井上隆

夫 E. R. Turner, The Privy Council

of 1679 (Oct. 25.) 岡本行雄 G. S.

Ueisch, The Genesis of Parliamentary

Reform 吉住治 J. A. Froude, Life

and Letters of Erasmus (Dec., 6.)

西洋史読書会大会 十一月三日「文学部第八

教壇史学研究会大会の一環として行われた読

書会大会はその第二日「百名の出席者を迎

え、盛会裡に終了した。大会次第次の通り。

山田作男「ドイツ騎士団に関する若干の考

察」松浦道一「ウィクトリアにおける宗教改革

思想成立の背景とロラード運動」宮沢靈岸

「イギリス荘園研究への一試察」田村滿穂

「重商主義と植民地の問題」加藤一朗「ト

インビーにおける古代文明の没落につい

て」衣笠茂「デモステネスについての一考

察」阿部重雄「アント人の種族同盟の基礎

について」水川温二「福音史家聖ルカの史

観」高井貞橋「ネストリウスの異端性とそ

の破門の経緯について」近山金次「アウグ

スティヌスの国家観の史的考察」

京大地理学関係

地理学談話会大会 十一月三日(土)

於 文学部第一教室

千手正美「佐賀平野に於ける干拓地農村の

生活問題」井関弘太郎「近世農村の通婚圏」

星野輝男「中国地方果実産業の経済地理的考

察」春日茂男「ヨーロッパ中世の穀物輸

送」齋藤晃吉「奥能登山村の土地利用に關す

る若干の問題」船越謙策「草地開発とその意

義」石田寛「陸方と漁方」河野通博「対馬にお

ける漁業経済の自給性とその崩壊」浅井辰郎

「冷害の垂直分布について」西村睦男「日本

工業分布の性格」神尾明正「南関東における

点紋緑泥片岩の先史地理学的意義」、庄司久孝「地理学分析の方法論」、坂内芳彦「漁業極区設定とその利用に關する地理学的研究」、近藤忠「クルス地名について」、内田秀雄「吉川興農株式会社始末記」、渡辺茂蔵「山村の生活」、松下清雄「人文地理より見たる吉野市の構想」、宮川善造「地政学の一批判」、松本博「斐伊川の沖積作用の一考察」、田中秀作「北海道の地誌的性格」

京大考古学関係

考古学談話会 例会 十日六日
坪井清足「近江石山貝塚について」、岡崎敬「嵯峨原の辻遺跡」、小林行雄「伊賀石山古墳の発掘について」
川端真治氏送別会 十一月二十二日
梅原末治「讃岐岩崎山古墳について」
遠村恵治氏送別並びに善本隆美君歓迎会 二月九日
笠井倭人「阿波野里町発見の土師質土器窯跡について」、室博「畿内に於ける古式古墳」
京大人文科学研究所関係
常設人文科学講座—農漁村における近代化（京都府下における実態）—

書評と紹介

二月十四日藤口兼二「農村近代化測定についての試み」、二月二十一日太田武男「改正相統法の農村に及ぼせる影響」、二月二十八日石川康二「漁村の経済生活」、三月六日重松俊明「農村家族の近代化」

自然史学会関係

第四十二回例会八月二十五日
藤岡喜愛「ロールシヤハ・テストの理論」
第四十三回例会 九月十五日
三品彰英「朝鮮の風神」
第四十四回大会 十月二十九日

小林高四郎「元朝秘史の原本の問題」、中尾佐助「栽培植物を指標とせる東亜の新農耕文化圈」

第四十五回例会（委員会） 十一月二日

第四十六回例会 十二月十五日

対馬調査談、瀬瀬養爾「信仰」、平山敏治郎「習俗」、河野通博「地理」、奥村三雄「方言」、小浜基次「人類」

第四十七回例会 一月二十六日

岡西為人「中国の医学」

人文地理学会関係

学術大会 十一月一日

於 京大文学部第一教室

武井鏡一「人口密度の圖示について」、稻見悦治「播州印南郡の開発過程について」、林正己「行政区画の改編」、金子廉「Tan Baturaの見た印度」、村田喜代治「G・T・レンナー」経済地理学の原理と法則」について、亀田芳郎「北陸三県の農業地域構造についての若干の考察」、河地貫一「吉野杉の研究」、椋原只好「イランの農業について」、小池洋一「亀岡盆地の灌溉水利」、籠瀬良明「埼玉県片柳台地の研究」、河南修「労働力より見たる近郊漁業」、細井淳一「遠州農業経営の地域構造」、御子柴幸一「焼畑経営と山村の経済段階について」、西村嘉助「瀬戸内海西部の工業港」、土井仙吉「吉野川の溪口集落」、岩永実「部落通婚圏の研究」、佐々木清治「古文書による新田の分布」
翌二日、山科—醍醐—宇治—大久保—高麗—木津—八幡—淀のコースでエクスカーションを行い、山科の寺内町、宇治茶園、巨椋池干拓、歸化人集落、木津川の漂泊業、垣内式集落等を見学。